

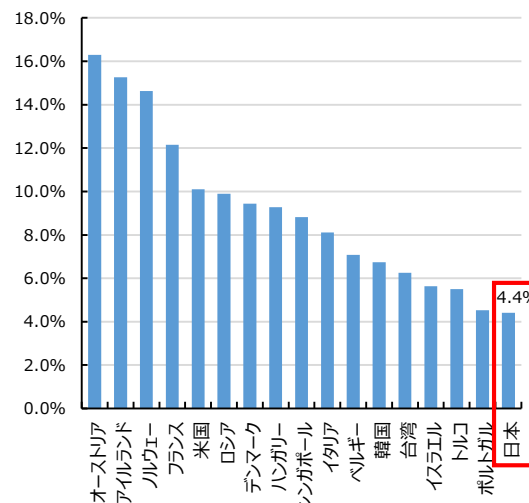
博士人材の産業界への就職等の現状について

我が国が今後も継続的にイノベーションを創出していくためには、社会を先導する資質・能力を持った博士人材が、産業界においても多様に活躍していくことが必要不可欠

しかし、現状は、

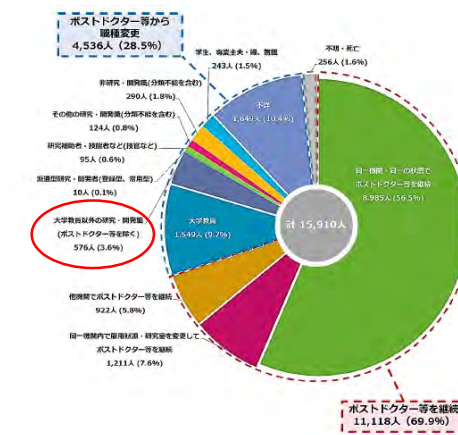
- 企業の研究者に占める博士号取得者の割合が他国に比べて低い
- 博士後期課程（理工系）修了後の進路として、産業界の割合は約3割（H28年度修了者実績）
- 2015年度のポスドクのうち、民間企業を含む大学教員以外の研究・開発職についた者は約4%（2015年度のポスドクの2016年4月1日時点での職種変更の状況）

企業の研究者に占める博士号取得者の割合



(日本) 総務省統計局「平成29年科学技術研究調査」
 (米国) "NSF, SESTAT"
 (その他の国) "OECD Science, Technology, and R&D Statistics"
 以上のデータを基に文部科学省作成

ポスドクター等の進路の概況
 (2015年度在籍者の2016年4月1日時点)



(出典) 文部科学省、科学技術・学術研究所
 「ポスドクター等の雇用・進路（2015年度実績）」（2018年1月）

➡ 大学院教育の体質改善や産業界の意識改革を通じて、博士課程学生やポスドクに対して、産業界へのキャリアパス拡大・流動性向上を図る必要がある

産業界へのキャリアパス

①社会のニーズに応える大学院教育の構築②有給インターンシップ③官民連携による若手研究者の発掘・マッチングによって、産学官の緊密な協働を進め、博士人材のキャリアパス拡大とオープンイノベーションを促進。

課題

・企業が若手研究者と直接連携する機会やリソースが不足

・大学院のカリキュラムと社会・企業の期待との間にギャップ

・大学院の強みや特色を踏まえた人材養成が出来ていない

・産業界における博士人材の採用が進んでいない

ポスドクのキャリアパス拡大

●ポスドクのキャリア開発の支援等に関するガイドラインの策定と組織的な取組の展開

③官民連携による若手研究者の発掘・マッチング

- 大学の有能な若手研究者を発掘
- 企業とマッチング（企業と大学を会員とする「オープンイノベーション協議会（JOIC）」等で展開）
- 国が企業とともに研究費（人件費含む）を支援

- 若手研究者の活躍の場（共同研究、インターン、ポスト等）の拡大
- 若手研究者が企業と直結するパスの構築
- 企業・大学双方での産学連携のための機能強化と意識変革

②長期有給インターンシップ

- 研究遂行の基礎的な能力・素養を身に付けた博士学生、ポスドク等による長期有給インターンシップを実施（単位化、優秀な学生の選択必修等）
- 各業界・学問分野ごとの検討・質の高い取組を促進

- 研究開発の加速や新たなイノベーションの創出
- 研究開発現場等に適用能力の高いより実践的な人材の育成

①社会のニーズに応える大学院教育の構築

- 「卓越大学院プログラム」等を通じた世界最高水準の大学院の創出・成果の横展開
- 大学との意見交換を通じた大学院教育の体質改善（コースワークや産学連携教育等）
- 外国及び産業界での博士人材の活躍状況調査を実施、好事例を発掘・産業界への普及
※産業界や大学との対話を通じて改革

- あらゆるセクターをけん引する博士人材の育成
- 博士人材の専門性や幅広い能力等に対する適正な社会的評価

- スタートアップ人材の育成
- 起業家教育プログラム

主たる対象

若手研究者
・
ポスドク等

博士課程
学生

共通

博士人材の産業界へのキャリアパス・流動を実現